

第2号議案

平成29年度

事業所別事業報告

障害者支援施設 穴山の里

多機能型事業所 わ〜く穴山の里

共同生活事業 グループホーム・ケアホーム

特別養護老人ホーム 穴山の杜

穴山の杜 短期入所生活介護

相談支援事業所 さくら

平成29年度

障害者支援施設 穴山の里 事業報告

はじめに

『真の福祉を追求していこう』という法人スローガンのもとに、事業運営方針として、地域資源を活用した日中活動を通して、地域住民とのネットワーク作りに心がけ、具体的に事業目標として6項目を決定し、年間活動を展開致しました。その結果、概ね目標を達成できました。特に職員の資質の向上と新しい制度の対応に向け、強度行動障害の研修を在籍夜勤職員のすべてに受講させることが出来ました。

運営方針に対する報告

1. 個別ケアの確立

よりきめの細やかな利用者支援を目的として、職員配置を1.7対1の人員配置を基本とし、夜勤も3名体制で行いました。

創作活動や余暇活動を充実させるべく9種類の活動項目を掲げ、各利用者の個性や“できること”を伸ばし増やすよう努めました。音楽、絵画クラブスポーツクラブは、外部の講師(ボランティア)、NPO 葦崎スポーツクラブの協力により、今年度も活発な活動ができました。また、個別支援計画に基づき利用者1人1人に対して計画を進めました。平成30年度から強度行動障害の指定を取り、強度行動障害の特質を持つ利用者に対し、個別支援計画に反映できるように在籍夜勤職員全員の外部研修を実施し、個人の質の向上に努め、個別ケアの充実に向け対応することが出来ました。

2. 地域貢献活動の推進

前年度に引き続き、鷲宮神社、ふれあいホール、道路清掃、さくら公園などの清掃、側溝の落ち葉取り等を実施いたしました。町内のイベントへの参加や諸応援も行い、特に東日本大震災による東北気仙沼の方々との交流会(さんま祭り)では、職員が自ら秋刀魚を焼き、地域の方に定食として提供するなどスタッフとして活躍しました。

また今年度も6月から3月にかけて、実習生として県内外の保育福祉関係の大学・専門学校7機関から24名の学生・生徒を受け入れました。その際に、保育の学生から、「障害の分野の仕事にも興味を持った」との感想を頂き、実

際にその実習生1名が、今年4月に採用になりました。また、山梨歯科衛生専門学校からは2回の実習：刷掃指導を受けました。

3. 職員資質の向上とマンパワーの確立

より良い職場にするための職員自身の気づきによる「業務改善提案制度」を今年度も実施し26件の提案がありましたが、昨年度の39件に比較すると減少傾向にありました。

さらに、苦情及び支援事故等の減少化の取組みを行いました。苦情受付数は3件(前年度0件)、事故報告数は32件(昨年度35件、前々年度31件)と30件からあまり変わることはありませんでした。

事故防止については、ヒヤリ・ハット報告を参考に未然の発生防止に努めるとともに、介護事故・拘束防止委員会を月1回開催し、原因究明とその対策を実施して発生数の減少に努めました。

事故の月別発生状況では、6月、9月、11月、3月が4件と最も多く、12月3件、1月3件などとなりました(前年度は7月10件、11月6件、4月4件など)。事故発生の時間帯については、午前中10件、午後5件、夕食後5件、夕食時4件となりました。発生場所としては、日中活動の場所や居室及び食堂内における発生が大部分を占めました。内容としては、転倒事故、他害や物の損壊事故が多く発生しました。転倒事故は利用者の高齢化による身体の運動機能の減退化が原因と思われる、また損壊事故の発生は強度行動障害を持つ利用者によるものが殆どでした。

なお、併行して実施している「ヒヤリハット報告」は30件(前年度35件、前々年度43件)でありました。ヒヤリハットは、重大な事故には至らないものの、直結してもおかしくない一歩手前の事例の気づき・発見です。ヒヤリハット報告を多く出し検証することで、事故の発生を未然に防ぐことに重点を置き今後も努めてまいります。

また、年度初めには目標管理シートによる各自の業務目標設定を行い、半年ごとに自己及び組織評価を行いました。

また、高齢化・重度化が進む利用者への『支援の質の向上』を目的として、「新任職員研修」や「障害者虐待防止・権利擁護研修」、「リーダー研修」等への派遣をはじめとして、延約64人を様々な研修会・講習会へ派遣しました。さらに、外部研修だけでなく高齢化する利用者に対して対応できるように介護技術の向上等を目的とした内部研修・講習会も随時実施しました。

4. 保護者会との連携強化

措置から契約制度への移行とともに、利用者の高齢化・重度化による疾病・事故等による入院が増加し、入院医療機関から付き添い要請がありました。保護者の高齢化により困難となりつつあります。そのため、山梨県知的障害児者生活サポート協会の「生活サポート総合補償制度」への加入や成年後見制度の利用などの啓蒙を引き続き行いました。

5. 桃を中心とした農産物の拡販

日中活動の一環として実施している桃等の生産・拡販について、今年度も利用者の保護者へのお中元・お歳暮等の贈答用利用を中心として販売に取り組みました。

6. 収入補填対策

施設居室稼働率向上策の一環として、短期利用者の確保に力を入れ、年間を通して17名（前年度18名）を受け入れ、年間延べ受入れ日数は804日（前年度827日）となりました。

介護福祉士・社会福祉士の資格取得については、2名が国家試験を受験しそれぞれが合格となりました。現在の介護福祉士資格取得者は11名、社会福祉士取得者は2名です。

おわりに

障害福祉政策を取り巻く環境もめまぐるしく変化し、今年度はサービス報酬改定が行われました。その中から見えてきたものは、①量から質への転換、②効率的・効果的な配分、③重度障害者・医療的ケア児対策、④経過措置の解消を図っていくと行くことを目指していくことが見えます。利用者の様相も高齢化、重度化と変化してきている穴山の里としても、強度行動障害者の対応から教育の充実を図り、自主的・積極的な取り組みを行ってまいります。

制度の改正の方向性をしっかり把握し、速やかに対応できる施設づくりを目指していきます。

以上

平成29年度

障害者支援施設 穴山の里 主な出来事

行事・出来事	
4月3日	辞令交付式
4日	なかよし会新年度総会(4月誕生会)
4日	新人職員研修
9日	穴山町さくら祭り参加
26日	内部研修会: 県立北病院「こころの出前授業」
5月3日	なかよし会 母の日プレゼント作り
11日	山梨県歯科衛生専門学校 刷掃指導(第1班)
14日	なかよし会 5月誕生会
18日	山梨県歯科衛生専門学校 刷掃指導(第2班)
19日	発支協スポーツ大会(汚泥抜き)
27日	レクレーション大会
6月4日	なかよし会 父の日プレゼント作り
5日	彰栄保育専門学校教育実習(～6/16)
11日	なかよし会6月誕生会
29日	穴山保育園 園児との交流会
7月4日	夜間避難訓練
7日	穴山町たなばた祭り見学/なかよし会七夕会
17日	なかよし会流しそうめん大会
23日	なかよし会7月誕生会
8月6日	信和会 地域ふれあい祭り 参加
11日	夏季家庭訓練(～15日)
21日	防犯カメラ設置工事(～8/23)
27日	なかよし会8月誕生会
9月1日	山梨学院短期大学教育実習(～9/7)/山梨県障害者文化展出展
9日	穴山保育園運動会参加
4日	穴山町防災訓練 参加
10日	なかよし会9月誕生会・敬老プレゼント作り
11日	第三者評価利用者調査
18日	山梨学院短期大学教育実習(～9/24)
24日	モニタリング説明会
10月1日	赤い羽根共同募金活動
4日	なかよし会十五夜・なかよし会10月誕生会
7日	北杜高校フェスタ見学

11日	ナイスハート甲府大会参加
14日	穴山町さんま祭り参加
20日	障害者交流会・汚泥抜き
29日	収穫祭
11月3日	穴山町文化祭 参加
10日	福生市障害者の親の手をつなぐ会来園
11日	なかよし会11月誕生会
13日	優和福祉専門学校教育実習(～12/8)
18日	利用者インフルエンザ予防接種
19日	なかよし会お菓子づくり体験
23日	穴山の里 文化祭
29日	第三者評価施設調査受審
12月5日	帝京学園短期大学教育実習(～12/19)
9日	地域餅つき交流会参加
10日	なかよし会12月誕生会
8日	ひまわり・ふれあい班合同外出
11日	なかよし会12月誕生会
23日	クリスマス会
28日	冬季家庭訓練(～1/4)
29日	利用者二泊三日旅行(第1班)・正月飾り飾り付け
1月1日	鷲宮神社 初詣
2日	利用者二泊三日旅行(第2班)
14日	どんど焼き・なかよし会新年会・1月誕生会
20日	味噌作り
17日	聖セシリア女子短期大学教育実習(～1/30)
28日	保護者会新年会
2月4日	なかよし会節分豆まき
12日	なかよし会2月誕生会
17日	なかよし会バレンタイン
19日	山梨学院短期大学教育実習(～2/25)
23日	韮崎市社会福祉大会参加
3月5日	山梨学院短期大学教育実習(～3/11)
6日	帝京学園短期大学教育実習(～3/19)
11日	なかよし会3月誕生会
18日	なかよし会ホワイトデー
25日	個別支援計画一斉説明会

平成29年度

わ〜く穴山の里 事業報告

当事業所は平成30年度に当たり14年目を迎えました。現在、就労B20名の定員に対し22名、生活介護定員については4月より3名増員し、12名になりました。計34名の方が利用されております。また、昨年10月には新事業所の竣工も終え、今後も「生きる力を身につける」テーマに基づき支援を展開して参ります。平成29年度の事業報告を行います。

1 就労支援収入・給付収入の安定化

29年度は目標設定した920万円を大幅に上回り1,080万円の作業収益となりました。山梨県の利用者様一人当たりの平均月工賃¥15,846に対し、¥25,000以上をお渡ししております。

また、定員増に向けた取り組みとして、県内の支援学校と積極的に情報交換を行いました。更に、各関係機関も含め連携を強化し、今後の就労継続支援B型の若返りに繋がるように話を広げております。

2 利用者本位の事業展開

利用者様が地域で生活するために必要なスキルを習得できるよう、就労B・生活介護・医務の分野別に方向性を模索する1年としました。

3 職員の質の向上

項目2にあるように、方向性が決まりそれぞれの分野ごとにテーマ展開を検討いたしました。明確な目的に沿った支援展開ができるように、平成30年度目標管理シートの個人の目標設定にも具体的に反映させました。

4 相談支援事業者との連携

在宅利用者様の家庭環境の変化の際には速やかな情報の共有を行い、利用者様が不安にならない対応を行うことが出来ました。

5 「知る機会」への啓発活動

建て替え後の日中活動事業所だからこそできる「地域との連携」や「知る機会」を増やすために様々な方を招いた催しを開催し、地域と繋がる手応えを感じております。

平成29年度

多機能型事業所 わ〜く穴山の里 主な出来事

月 日	出来事
4月 5日	総合型スポーツ活動 ともだちの会新年度総会お花見会昼食会 職員含め 37名参加)
13日	ともだちの会 駅舎清掃 (職員含め 6名参加)
15日	さくら花見会 (北杜・甲斐市方面 職員含め 31名参加)
20日	ともだちの会 周辺清掃 (職員含め 17名参加)
5月 10日	ともだちの会 駅舎清掃 (職員含め 8名参加)
27日	ともだちの会 周辺清掃 (職員含め 13名参加)
6月 8日	日帰り旅行 (東京・品川方面 職員含め 33名参加)
15日	ともだちの会 駅舎清掃 (職員含め 8名参加)
22日	ともだちの会 施設周辺 道路清掃 (職員含め 14名参加)
7月 5日	わ〜く運動会 (韭崎市営体育館 職員保護者含め 51名参加)
12日	ともだちの会 周辺清掃 (職員含め 5名参加)
8月 9日	ともだちの会 駅舎清掃 (職員含め 8名参加)
23日	ともだちの会 地域清掃 (職員含め 8名参加)
9月 6日	ともだちの会 駅舎清掃 (職員含め 7名参加)
13日	ともだちの会 施設周辺清掃 (職員含め 19名参加)
14日	外出昼食会 (くら寿司にて 職員含め 44名参加)
10月 1日	わ〜く穴山の里 新社屋リニューアルオープン
11日	ともだちの会 駅舎清掃 (職員含め 7名参加)
18日	ともだちの会 穴山郵便局周辺清掃 (職員含め 11名参加)
11月 1日	ともだちの会 十三夜と紙芝居
9日	ともだちの会 駅舎清掃 (職員含め 8名参加)
15日	ともだちの会 穴山郵便局 周辺清掃 (職員含め 14名)
25日	パンバイキング (職員含め 36名参加)
12月 9日	生活介護 お菓子づくり (外部講師を招いて 職員含め 38名)
14日	外出昼食会 (すたみな太郎にて 職員含め 47名)
19日	ともだちの会 駅舎清掃 (職員含め 9名参加)
21日	ともだちの会 施設周辺清掃 (職員含め 13名参加)
1月 13日	おにぎり豚汁バイキング (所内にて 職員含め 38名参加)
2月 2日	ともだちの会 節分 (職員含め 39名参加)
6日	ともだちの会 駅舎清掃 (職員含め 9名参加)
13日	生活介護 お菓子づくり (職員含め 6名参加)
14日	ともだちの会 バレンタインイベント (職員含め 36名参加)

24日	唱歌の会コンサート（観客動員数 82名）
27日	女性利用者対象 お茶会（栗原アドバイザーを招いて 17名参加）
28日	ともだちの会 穴山郵便局周辺清掃（職員含め 11名参加）
3月 12日	生活介護 ホワイトディお菓子づくり（職員含め 6名参加）
14日	ともだちの会 年度末総会&ホワイトディイベント（職員含め 32名参加）
19日	ともだちの会 穴山郵便局周辺清掃（職員含め 16名）
20.・23日	人ねっこアート展見学（利用者 11名出展）
24日	韭崎市吹奏楽団有志アンサンブルコンサート（観客動員数 74名）
28日	ともだちの会 駅舎清掃（職員含め 9名）
その他	生活介護 総合型スポーツ活動（2回/月）
	習字教室（1回/月）
	ともだちの会 紙芝居（1回/月）

平成29年度

共同生活事業 事業報告

平成29年度は、利用者の高齢化に伴い、障害者に対する支援のあり方として、高齢化・重度化への対応を課題として取り組んでまいりました。

現在、当事業所においても60代・70代の利用者が3割を超え、最高齢の利用者様は76歳となり高齢化が進んでおります。

障害福祉サービスと介護保険サービスの併用をされている方もおり、介護保険サービスについては、穴山の杜短期入所施設を月に一度利用させていただいております。

1. バックアップ施設・防災連絡体制（日中・夜間）

- ・ 障害者支援施設穴山の里及び多機能型事業所わ〜く穴山の里を拠点とし、日中・夜間等の健康管理も含め連携し、支援体制の確保をしております。夜間支援体制として引き続き継続契約を結び、防災・防犯等民間警備会社（セコム）と連携を図り安全体制の確保にも努めております。また、第2あなやまハイツのスプリンクラーの設置が終わり全5棟の設置が完了いたしました。火災報知器の連動化工事も終了し、新しい基準にすべて適合させ防災基準をクリアしております。

2. 入居者の生活の基本

（日中活動先の確保）

- ・ 日中活動先として穴山の里：3名・わ〜く穴山の里：16名・穴山の杜：1名・富士工器：2名・能見荘：1名と就労に向けて訓練を受けながら働いて工賃を得ることを主体に生活の基盤確保に努めてまいりました。また、生活介護を利用している利用者様においては、創作的活動、身体機能や生活能力の向上のための活動を通じ、自立の促進と社会参加の増進に繋がるように努めてまいりました。

日中活動先と連携し、常に情報の共有を図りより良い支援が行えるよう努めております。

（休日・奉仕・余暇）

- ・ 地域奉仕活動として、JR穴山駅舎・穴山郵便局周辺の清掃活動を、ケアホーム利用者・世話人の方々が中心となり活動しております。毎年、JR東日本様から感謝状をいただいております。29年度においては国土交通大臣表彰を授けました。
- ・ 余暇活動としては、穴山の里太鼓クラブの活動に参加、現在各ホームからの希望者13名の方々が毎週1回、ボランティアの先生のご指導のもと、日々の上達に向け頑張っております。練習の成果も含め、地域行事の場・自衛隊北富士駐屯地記念式典での披露・県内福祉施設慰問演奏など、積極的に活動範囲を広め発表する喜び・成

果を感じる事が出来るよう余暇活動の充実を図っております。

・休日には、公共交通機関を利用し買い物等の外出計画を立てて行い、単独外出が困難な利用者さまにおいては、職員が付き添っての外出の他グループで穴山の杜の売店を利用させていただき、自立に向けて経験を重ねてまいりました。

3. 業務報告

- ・毎月第1月曜日に、世話人（11名）職員5名の参加による報告会を開催、アドバイザーにも参加していただき各ホームから利用者状況報告・業務収支状況報告・日中活動先からの状況報告・施設内研修を行い業務運営・資質向上に努めております。
- ・各ホームの会議・巡回等も定期的に行い、意見交換・情報共有し、相談・協力し合える風通しの良い環境作りに努めてまいりました。

平成29年度

共同生活事業 年間活動

日 付	
4月9日	穴山町さくら祭り
4月23日	陸上自衛隊北富士駐屯地 太鼓演奏
5月5日	バーベキュー
5月28日	おやつ作り
7月7日	七夕飾り
7月21日	甲府・春光園にて太鼓演奏
8月6日	信和会 夏祭り 太鼓演奏
8月11日～16日	夏季帰省
10月14日	穴山町 さんま祭り 太鼓演奏
10月16日	駅舎清掃 国土交通省大臣表彰式
10月26日	大臣表彰取材
10月28日	みのるの里祭り見学
11月2日～3日	穴山町文化祭
11月23日	穴山の里文化祭
12月22日	クリスマス会
12月28日～30日	石和温泉宿泊旅行
1月16日	G.H合同新年会
3月6日～8日	奄美大島旅行
その他	外食：各ホーム 毎月1～2回
	毎週1回 太鼓の練習
	不定期：映画・カラオケ外出
	利用者外出：単独（月1回）付き添い：月1回

平成29年度

穴山の杜 事業報告

法人スローガン 真の福祉を追求していこう

事業運営方針

入居者一人一人の意思及び人格を尊重し、利用者の居宅における生活と利用中の生活が連続したものになるような運営を目指す。また施設、ご家族の情報を共有し入居者、ご家族の心身の安らぎを提供する

運営目標

- 1、 利用者の意思、人格を尊重した介護の基本の徹底
29年度は全職員が介護の基本に戻り、利用者が満足し生活して頂く為に様々な事を見直していきました。大きくは変わらないが、職員一人一人が同じ考え、目線で対応できるように、ルールを決め写真付きのマニュアル表を作成しユニットに配付し、その表を「見える化」する事で、職員が同じように対応できるようになり、利用者の居住生活を快適に提供出来ました。
排泄は今まで通り、トイレ又はPトイレでの排泄を促し、ベット上での交換の方は身体上の問題で1名となっています。
健康管理については、医務、他職種連携し早期発見に繋げる事が出来ました。
- 2、 介護技術の向上
科学的介護は今まで通り継続し行っています。
5月より、ヒノキ風呂へ移行するために安心、安全に入浴が出来るように、研修を行い10月よりヒノキ風呂へ移行することができました。
又、ユニットでのケア活動の成果として、外部発表に2ユニットが参加しそのうちの1チームが関東大会（千葉県で開催）への出場の栄冠を獲得しました。
- 3、 満床率 95%の確保
1年間の満床率 98.48% と大幅に目標を達成しました。
昨年度の退去者数は15名であったが周到な段取り入居までの空床期間を最低限に抑えた結果であると考えています。
- 4、 職員教育の推進
リーダー教育の徹底
外部講師により月1回、1年を通しての長期の教育訓練を実施しました。
リーダーとしてあるべき姿の訓練や自己の持っているメンタル面の弱点、長所を認識し事業目標を達成するリーダーとしての役割を自覚するための訓練です。
ユニットリーダー研修
中央研修機関によるユニットリーダー研修へ1名が参加しました。

30年度も1名参加を予定しています。

5、委員会活動の推進

介護事故、拘束、虐待防止委員会

ヒヤリハットを出す事により、大きな事故には至らず未然に防ぐことが出来た。
日頃からスピーチロック（言葉の暴力、虐待）を職員間で意識し、拘束や虐待防止に努めました。

安全衛生委員会

感染対策を徹底していたが、インフルエンザの罹患者が多く発生してしまった。
居室やホール内の加湿、室内温度等に目を配り調整をこまめに行いました。

介護力向上委員会

ユニットの委員会メンバーが率先し、24時間シートの見直しをこまめに行いました。
介護技術(移乗・入浴研修・認知症)の研修を定期的に行いました。。

接遇、レク、環境整備委員会

利用者がとても楽しみにしている喫茶を年3回行う事が出来ました。
1階ロビーに集まり、音楽を聞きながらゆっくり本人の食べたい物や、飲み物を選び
召し上がられる至福のひとつ、利用者には毎回大変好評でした。

穴山の杜 平成 29 年度 主な出来事

	行事・出来事
4月3日	辞令交付式
13日	お話し会（ロバとうさぎの会傾聴ボランティア）
18日	音楽会（アンサンブルリベカによるコーラス）
26日	お楽しみ会（初花会、松花会による日本舞踊）
28日	結核検診（夜勤者対象）
5月16日	お話し会（ロバとうさぎの会傾聴ボランティア）
6月13日	お話し会（ロバとうさぎの会傾聴ボランティア）
17日	甲府愛宕山キリスト教会慰問
18日	環境整備（利用者家族対象 37 家族 45 名参加）
21日	お話し会（ロバとうさぎの会傾聴ボランティア）
7月18日	お話し会（ロバとうさぎの会傾聴ボランティア）
8月6日	地域ふれあい夏まつり
8日	お話し会（ロバとうさぎの会傾聴ボランティア）
9月4日	秋の健康診断（利用者・職員対象）
12日	お話し会（ロバとうさぎの会傾聴ボランティア）
10月10日	お話し会（ロバとうさぎの会傾聴ボランティア）
11月26日	環境整備（利用者家族対象 28 家族 36 名）
22日	お話し会（ロバとうさぎの会傾聴ボランティア）
12月4日	穴山保育園児慰問（お遊戯披露）
2月18日	山梨県老施協研究総会成果発表

平成29年度

穴山の杜 短期入所生活介護事業所 事業報告

1 はじめに

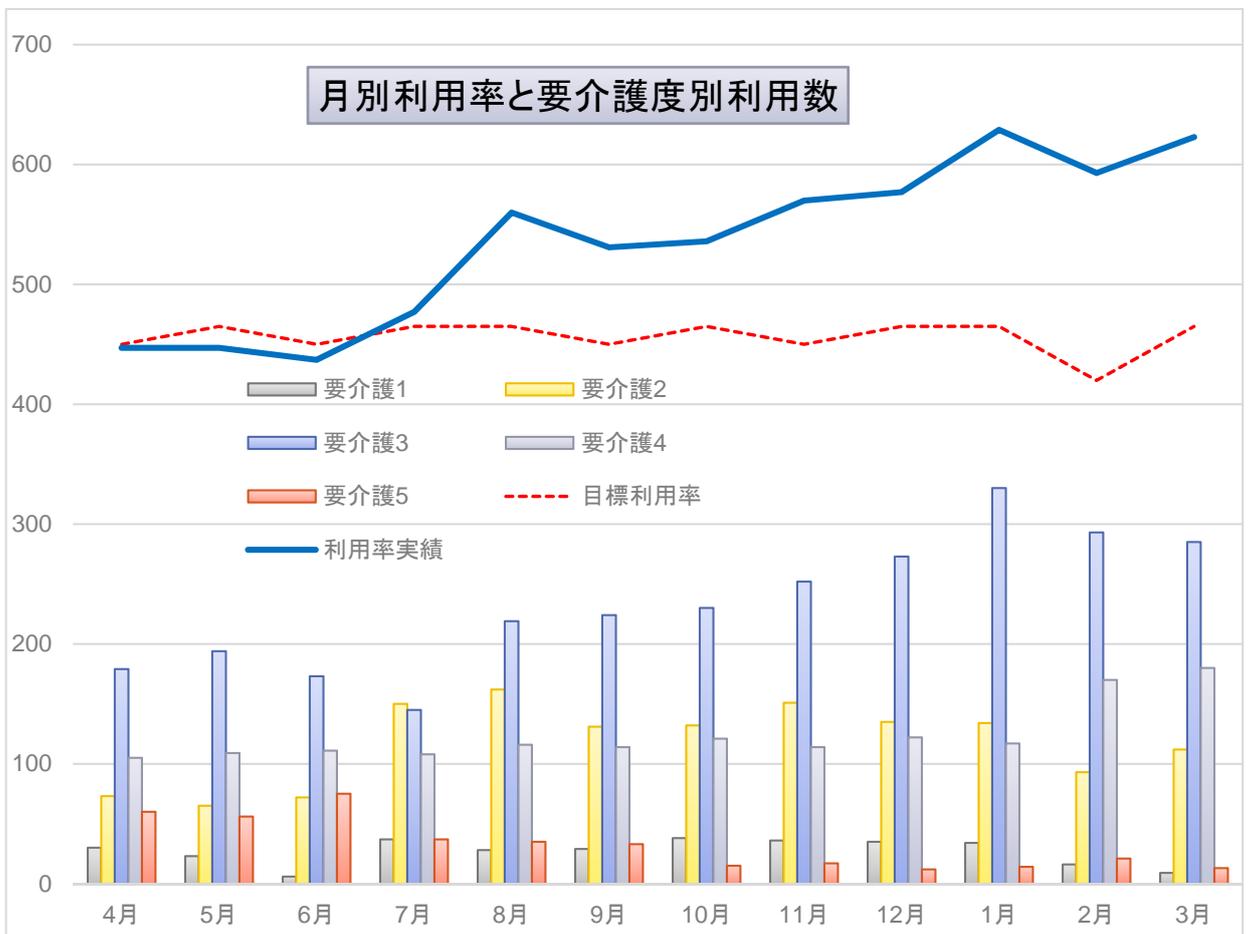
地域のニーズを耳にした中で平成28年4月に開所し、当初は月平均5名の利用者也昨年度末には15名平均まで伸ばし、今年度はその流れで平均15名から始まり、夏には平均18名まで利用者数を伸ばし、秋には若干利用が下がることもありましたが、冬には徐々に利用を伸ばし、年間月平均18名までに達することができ、昨年度よりも順調に実績を上げることができました。

2 今年度の実績

① 利用率75%の確保

年度当初は目標である75%を下回っていましたが、7月からは目標値をクリア出来るようになり、8月には90%、11月には95%、1月から3月の3ヶ月間はついに100%に達成することができました。

また、年間の平均利用率は88%で、数字上では目標値を大きく上回ることができました。ただ今年の冬は寒波の影響で、在宅者の利用の需要が非常に高く、周辺のどの事業所も満床の状況でしたので、利用率が高くなった背景にはそのことも多分にあったかと思われます。



② 安心・安全なサービスの提供

ヒヤリハットは年間73件挙がり、実際介護事故に至ったケースは37件であり、とても少なかったとはいええない状況でした。事故ケースのうち病院受診を必要とし、市町村へ報告したものは2件でした。

ご利用者自身を尊重し、持っている機能をも維持していただきながら、未然に事故を防ぐことは非常に難しいことと感じます。しかし、事故になりそうな事象を常に職員間で共有し、日頃からご家族に対し情報を伝え、何か起こった時に早急に対応していくかがとても大切なことであり、そのことが安心、安全なサービスへと繋がっていくのではないかと思います。

③ 事業所との連携

昨年度は10事業所、21名の介護支援専門員でしたが、都度利用者によって変動はあるものの、今年度末には15事業所、31名の介護支援専門員に繋がりを増やすことができました。また、病院のソーシャルワーカーからの相談もあり、居宅の事業所以外にも関係を広げることができました。

3 反省および今後の課題

開所当初からの方針・・・どのような状態の利用者もどんな状況でも可能な限り受け入れること、絶対に利用を断らないこと、土日祭日も変わらず受け入れること・・・でサービスを展開してきたことで、2年目も予想を大きく上回った数値で利用を受け入れることができ、数字上での実績を上げることができました。

またその受け入れ態勢により、居宅の介護支援専門員からの評価も少しずつではありますが高くなり、その声が外へと広がり、他施設から職員が研修に来所するまでに成長することができました。外部の職員に我々のケアを見ていただくことで、逆に勉強にもなりました。

全体的に見るとここ2年は利用率を上げることに専念し、突っ走ってきたように思います。しかし、その中でも利用者を主体とし、ご家族や利用者の意向に沿って支援してきたことで、着実にその成果が周囲に認められてきているように思います。

このことは特養から短期入所へと異動してきた職員がこれまで学んできたユニットケアを、杜の短期入所なりにアレンジしながら実践していること、新しい職員にもそのケアを伝達してくれていることが大きなことではないかと思います。

まだまだ職員は専門的な知識は不足しており、多種多様な対応ができていない状況でもあります。来年度3年目を迎えますが、これまで利用率ばかりに捉われてきた経過がありますが、職員の資質向上、一人一人が介護力を身に着けていくことに重点をおきていきたいと考えます。

穴山の杜短期入所生活介護事業所

平成29年度 主な出来事

日 付	内 容
4月 1日	辞令交付式
17日	職員親睦会
28日	結核検診（夜勤者対象）
5月10日	おやつレクリエーション（蓬饅頭作り）
25日	感染症研修
6月18日	余暇活動（アクセサリー作り）
19日	蕪崎市介護相談員来所
7月18日	第三者委員来所
27日	防災避難訓練
8月 7日	オカリナ演奏慰問
24日	身体拘束研修
9月20日	穴山の里敬老の日慰問
10月12日	山梨県指導監査
13日	山梨県実地指導
11月30日	おやつレクリエーション（五平餅作り）
12月 5日	余暇活動（クリスマスツリー作り）
18日	職員忘年会
25日	クリスマス会
26日	寿司パーティー
30日	余暇活動（正月飾り作り）
1月12日	おやつレクリエーション（小正月繭玉作り）
2月 3日	節分
2月 7日	権利擁護研修
3月 6日	第三者委員来所
3月 7日	おやつレクリエーション（蓬饅頭作り）

平成29年度

相談支援事業所 さくら 事業報告

1 平成29年度の行政動向

昨年度盛んに言われていた「地域生活支援拠点の整備」に向けた取り組みも、早急に形作るよりはじっくりと検証してから…と行政側でも腰を据えて進める方向へと向いております。

一方、相談支援業務に関しては事業所の拡大が伸び悩んでいるのに反比例して、利用者の数は増えているのが実情です。

2 「さくら」の実績（事業目標3点における報告）

① 迅速な対応と連携 …について。

29年度は利用される方を取り巻く家族構成に変化が生ずることが多々見られました。中には父子家庭で生活されてきた利用者が父親を亡くし、急遽単身生活が始まったケース。母親の入院に伴い、年末の多忙な時期に単身生活になりそうだったケース。兄弟間の関係が悪化し、グループホームへと住まいの場を移動したケース等々。

その都度、関係者や行政に連絡をして一番良い方法を共に考えながら乗り切ってきましたが、そのような時こそ改めて兄弟姉妹の協力であったり、近隣者や事業所間の協力など、自助・共助・公助の部分を身を持って感ずることが出来ました。

一方「障がい」ゆえに育児が思うように行かず、虐待事案として児相が入ったケースでは、我が子を迎え入れられるだけの家庭環境が整わないと戻せないとの判断が下り、ヘルパーを入れることが条件としてサービスの利用に至りましたが、ご本人の思いと現実との差に相談現場の難しさも感じています。

② 他職種との積極的な交流 …について。

利用される方は、65歳を超えた方やそろそろ迎える方と様々です。実際に「介護保険」との併用をされているケースでは、介護や看護の視点から助言を頂くこともあり、「自分で出来そうなことは継続していくために必要な補助具」の提案など、とても勉強になりました。

これから「介護保険」へと移行する方に関しては、制度の違いなど行政担

当者から説明する場を設けるなど、現在調整を図っているところです。

③ 地域ニーズの情報共有

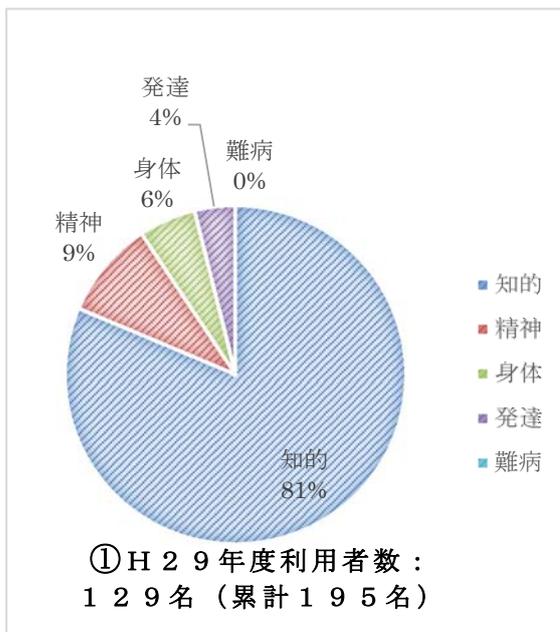
先に述べたように「地域生活支援拠点の整備」については、市内や他市でも具体的な動きなどの情報は少なく、峡北地域では通所・入所・共同生活などの事業所を中心とした「事業所部会」にて現状把握を進めているところ
です。

また外部研修「相談支援従事者現任研修」に参加して、県内の相談支援従事者との情報交換を行いました。やはり相談支援事業所の数が増えぬこと。困難ケース（精神疾患・発達障がいのある方のケースなど）が増えていることなどが上げられました。

それと同時に現任者として後輩を育てるために必要な「ピアスーパービジョン」を学ぶこともできました。「傾聴する」「穏やかに」「勝負しない」どれも私には耳の痛い言葉でしたが、真摯に受け止めていきたいと思
います。

3 おわりに

平成30年度は「報酬改定」を見越して兼務職員を配置して頂けることとなりました。必要に応じて補助に入ってもらいながら、より質の良い相談支援業務につなげていきたいと思
います。 以上



【内訳】

サービス等利用計画作成数	
（新規）	8件
（更新）	72件
合計	80件

モニタリング作成数

（単純作成）	166件
（更新時追加資料）	72件
合計	238件